

目	は	は	た		導	い	水	防	広	将	つ	眺	広	を		才	番	「	ほ
を	、	覆	木	九	か	て	寺	止	さ	棋	た	め	が	、	ベ	が	才	・	ど
細	首	わ	々	割	れ	い	の	用	だ	を	た	る	つ	そ	ラ	言	の	・	叩
め	を	れ	が	の	る	い	欄	の	っ	指	桶	よ	が	の	ン	葉	脳	・	い
た	捻	て	伸	一	ま	と	干	欄	た	す	を	う	が	に	ダ	と	を	・	て
薄	り	い	ば	割	ま	こ	が	に	。	。	置	な	座	は	に	認	揺	・	か
っ	太	る	す	の	に	ろ	据	手	し	い	い	風	つ	日	識	す	る	と	ら
す	陽	。	枝	一	欄	だ	え	を	か	。	て	鈴	て	本	す	そ	う	。	ベ
ら	の	喬	や	割	干	っ	付	つ	し	。二	。二	と	西	庭	こ	の	。風	。ベ	ラ
と	よ	木	そ	の	に	た	け	れ	唯	人	。二	瓜	園	は	は	は	。風	。ラ	ン
し	う	の	こ	雑	手	。番	て	て	一	盤	。二	、	な	に	な	。風	と	。ダ	ダ
た	に	頂	に	多	を	才	あ	あ	違	面	。二	足	見	か	。風	合	。出	。出	。出
世	全	点	群	色	つ	は	と	と	う	を	。二	を	ら	っ	。合	わ	。出	。出	。出
界	て	と	生	。高	い	。番	こ	こ	と	睨	。二	伸	れ	。合	さ	。出	。出	。出	。出
で	を	思	す	さ	傾	前	ろ	ろ	。番	み	。二	ば	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出
、	照	わ	る	の	斜	の	と	と	。番	つ	。二	し	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出
欄	ら	れ	葉	異	が	景	。番	。番	。番	け	。二	庭	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出
干	す	る	で	な	つ	色	。番	。番	。番	。二	の	草	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出
か	光	箇	視	。高	。番	に	。番	。番	。番	。二	花	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出
ら	に	所	界	さ	。番	。番	。番	。番	。番	。二	を	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出	。出

し	『	う	少	け	く	ら	繋	全	だ	に	ら		確	い	目	じ	ど	身
い	蝦	に	し	る	そ	端	が	て	っ	位	、		に	た	を	ベ	高	を
会	蟻	廊	横	喋	う	ま	つ	の	た	置	わ		把	地	を	ラ	い	乗
話	の	下	に	る	だ	で	つ	部	っ	し	た		握	面	向	ン	場	り
を	壺	に	ず	蛙	ろ	歩	て	屋	っ	て	の		す	と	ダ	所	出	
掬	』	い	ら	か	う	く	い	の	っ	い	部		る	目	が	に	し	
い	に	い	し	。い	と	ほ	る	部	っ	の	屋		こ	が	あ	あ	上	
上	いた	い	、	よ	自	ど	こ	を	っ	か	と		こ	い	る	。そ	を	
げ	二	よ	折	よ	身	の	は	区	っ	。そ	な		こ	、	の	。そ	見	
中	匹	フ	り	フ	の	勇	一	切	っ	れ	ん		こ	、	の	。そ	上	
を	の	ア	曲	ア	推	気	目	つ	っ	か	の		こ	、	行	。そ	を	
覗	蛙	ン	げ	ン	測	は	瞭	た	っ	、	仕		こ	、	動	。そ	見	
く	。ま	タ	た	タ	に	ま	然	が	、	端	切		こ	、	の	。そ	上	
、	だ	ジ	足	ジ	強	だ	だ	、	、	か	り		こ	、	中	。そ	を	
淀	な	ー	が	ー	引	っ	っ	、	、	端	も		こ	、	で	。そ	見	
ま	。一		溝		に	た	、	恐	、	か	と		こ	、	上	。そ	え	
ぬ	。一		を		決	が	、	ら	、	、	一		こ	、	に	。そ	る	
水	。一		跨		着	、	、	、	、	、	つ		こ	、	も	。そ	ほ	
面	。一		ぐ		を	つ	、	、	、	、	目		こ	、	同	。そ	ほ	

の更に奥には、これまでの出来事も鮮明に残
 っていた。こけしや雫、ピエールとカトリ
 又という蛙、BJ（ビージエイ）と名乗る青
 年など、ここで出会った人物の顔を思い出し
 ていた。すると左側で何か動く気配を感じ
 すぐに立ち上がり走り出せる体勢になりなが
 ら首を捻ると、白いワンピースを着た雫が音
 もなくベランダに出てくるところだった。
 雫は番才の存在に気付いている様子もなく
 ぶらぶらと覚束ない足取りで欄干に向かつて
 歩を進めている。白いワンピースから伸びる
 手足は細く、日焼けなどしたことがないので
 はないかと思えるほど白い。全体を通して黒
 と白のモノクロの少女は、光のスポットライ
 トの下で妖艶に輝いて見えた。
 そんな雫のゆったりとした歩行を眺めてい
 た番才は「もしかして」という思考が頭から
 離れず、心では安堵したものの体勢まで緩め
 ることができていなかった。横顔は髪に隠れ
 て確認できず、どんな表情をしているのかわ

ら	強	「	つ	い	せ		転	の	勢	け	手	し	と	凜	は		い	う	か
、	く	お	め	う	た	「	ん	な	の	が	を	か	番	が	危	（	動	か	れ
番	打	・	、	感	凜	ひ	だ	い	勢	欄	突	し	才	急	険	二	き	判	ば
は	ち	・	魂	情	は	つ	。	い	い	干	き	は	は	に	だ	階	を	断	少
は	付	お	が	以	首	！		を	を	の	、	は	ほ	前	。	凝	で	し	は
怯	け	は	抜	外	だ	と		大	鬼	上	膝	欄	と	の	視	奇	可	今	は
え	た	よ	け	が	け	顔		き	の	に	から	干	ん	ど	す	妙	る	今	想
る	た	う	た	思	を	守		な	形	置	そ	に	ど	走	な	な	。	少	想
少	両	ご	み	い	音	る		音	相	か	の	に	り	り	が	時	女	像	し
女	膝	ざ	た	つ	の	よ		と	で	れ	場	到	な	な	間	が	の	て	い
に	と	い	い	か	し	う		衝	見	た	で	達	が	ら	流	。	赤	る	る
下	右	ま	に	な	た	に		撃	て	、	崩	す	と	立	れ	子	こ	。	と
投	手	す	動	表	方	両		に	い	落	れ	と	ち	上	方	の	と	が	杞
げ	の	。	か	情	に	手		変	た	落	。	そ	上	が	に	よ	。	。	憂
で	痛		な	で	捻	を		え	番	ち	こ	こ	が	つ	よ	う	。	。	か
言	み		な	番	り	硬		て	才	始	。	。	。	。	な	。	。	。	ど
葉	と		な	才	、	直		派	は	め	。				。				
を	戦		な	を	怯	さ		手	、	よ									
投	い		な	見	え			に	行	う									
げ	な		。	。	と				き	な									
	が								場	体									

座	着	ぬ	る	番		う	が	相	夫		上	膝	で		い	に	ま		笑
り	か	思	異	才		に	抜	手	・		が	や	す		な	緊	だ		っ
込	な	考	性	は		パ	け	が	・		え	腕	が		か	張	よ		て
む	い	の	を	こ		タ	て	番	・		！	を	が		つ	が	く		み
零	気	迷	目	こ		リ	い	才	・		？	は	が		た	加	状		せ
と	持	路	の	か		と	き	だ	・		あ	た	本		°	わ	況		た
目	ち	を	前	ら		床	、	と	・		っ	き	当			り	が		。
が	を	さ	に	ら		に	両	と			、	な	に			身	理		
合	持	ま	し	ら		落	腕	と			い	が	申			体	解		
っ	て	よ	た	く		ち	が	気			や	し	訳			の	で		
た	余	っ	た	の		°	糸	付			ら	ない				力	き		
°	して	て	°	よう			を	いた			番	°			を	て			
零	いる	い	な	か			切	零			才	は			抜	い			
は	と	た	、	と			ら	の			は	ゆ			く	な			
す	、	°	好	不			れた	体			い	っ			こ	な			
ぐ	意	そ	意	意			人	か			くり	°			と	か			
に	に	ん	を	を			形	ら			りと	た			立	っ			
目	に	な	寄	寄			の	徐			°	ち			ち				
を	に	落	せ	せ			よ	々			大								
逸	に	ち						に			丈								

か	つ		空	日	「	語	上	す	「	て	よ	先	て	座		除	番	両	ら
っ	、		の	は	そ	か	ず	ね	い	く	り	ほ	い	り	手	し	才	手	し
た	疲		光	外	う	ら	っ	。	い	固	固	ど	た	な		た	は	を	前
で	れ		を	に	た	何	た		。	く	く	ま	いた	が		。	自	を	髪
す	て		仰	出	声	を	た			れ	結	で	番	考			分	組	で
ね	。		ぎ	て	が	言	後			ば	ば	と	才	え			か	み	目
」	。		な	ゆ	後	っ	半			れ	れ	変	は	て			ら	肩	を
	。		が	っ	半	て	菱			て	て	わ	、	い			話	で	隠
	。		ら	く	ん	い	で			い	い	ら	す	た			を	息	し
	。		番	り	し	の	し			っ	っ	そ	ぐ	こ			を	し	た
	。		才	し	た	か	ま			！	！	っ	へ	と			振	て	。
	。		は	た	く	理	っ			て	て	を	と	視			ると	い	祈
	。		は	く	な	解	て			て	て	向	へ	線			い	る	る
	。		応	な	り	で	い			、	い	い	と	を			う	。	よ
	。		え	り	ま	す	た			。	。	。	。	注			案	。	う
	。		た	す	す	ね	。			。	。	。	。	い			を	。	に
	。		。	ね	。	。	。			。	。	。	。	だ			脳	。	胸
	。		。	。	。	。	。			。	。	。	。	。			内	。	の
	。		。	。	。	。	。			。	。	。	。	。			で	。	前
	。		。	。	。	。	。			。	。	。	。	。			削	。	で
	。		。	。	。	。	。			。	。	。	。	。			。	。	。

「	思	の	「	に	震	「	こ	と	だ		返	な	僅	前	何	優	し	へ	そ
・	議	木	こ	落	え	・	ろ	だ	。		っ	平	か	髪	が	が	し	こ	の
・	が	は	ん	ち	な	・	で	こ	こ		た	か	な	の	あ	い	ん	な	言
・	一	全	な	た	な	・	す	こ	こ		。	ら	髪	の	っ	心	な	な	葉
・	つ	全	に	。	に	・	。	こ	こ			一	の	揺	。	の	な	状	を
・	増	く	日		上	・		に	こ			度	れ	。	。	。	な	態	聞
・	え	熱	が		が	わ		。	こ			顔	で	。	。	。	。	に	き
・	て	な	照		っ	た		。	こ			を	伝	。	。	。	。	。	番
・	し	っ	っ		て	し		。	こ			っ	わ	。	。	。	。	。	才
・	ま	て	て		い	も		。	こ			、	っ	。	。	。	。	。	は
・	い	い	い		た	の		。	こ			す	っ	。	。	。	。	。	驚
・	ま	。	。		肩	に		。	こ			ぐ	っ	。	。	。	。	。	い
・	し	。	。		と	些		。	こ			に	っ	。	。	。	。	。	た
・	た	。	。		両	か		。	こ			笑	っ	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		手	苦		。	こ			顔	っ	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		が	労		。	こ			で	っ	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		同	し		。	こ			振	っ	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		時	て		。	こ			り	っ	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		に	い		。	こ				。	。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		下	。		。	こ					。	。	。	。	。	。
・	。	。	。		。	。		。	こ						。	。	。	。	。
。									こ										
									こ										
									こ										
									こ										
									こ										
									こ										
									こ										
									こ										
									こ										

い	し	た	番	「		ら	全	り	蛇	そ	今	初	れ		分	を	で	の	フ
と	ま	能	才	う		し	神	の	行	の	自	め	は	ベ	の	上	動	時	ワ
助	っ	面	は	わ		た	経	よ	さ	面	分	は	、	ラ	足	げ	、	、	ツ
け	た	と	つ	あ		。	が	う	せ	の	が	そ	、	ン	元	た	影	番	と
な	零	、	い	あ			一	に	な	生	い	れ	歌	ダ	、	じ	に	才	風
け	を	頭	に	あ			斉	に	が	首	る	、	舞	の	ろ	気	は	が	二
れ	同	抱	手	あ			に	視	欄	が	恐	、	伎	外	い	付	零	人	間
ば	じ	え	す	あ			「	覚	干	欄	怖	、	や	側	だ	き	の	を	を
い	視	て	り	あ			」	が	の	干	を	な	能	に	。	、	座	通	り
け	界	そ	り	あ			と	信	手	の	感	、	面	目		る	り	抜	け
な	に	の	も	あ			れ	号	す	手	じ	の	の	を		ベ	の	け	て
い	映	場	上	あ			！	を	り	の	な	、	よ	向		ラ	部	い	っ
の	し	で	へ	あ			」	と	ま	、	か	、	う	け		ン	分	っ	た
相	た	う	と	あ			と	警	送	、	っ	、	、	た		ダ	の	、	そ
反	ま	ず	首	あ			報	を	、	、	、	、	、	。		の	へ	、	、
す	ま	く	を	あ			鳴	、	、	、	、	、	、			り	の	、	、
る	ま	ま	伸	あ												部	、		
感	ま	ま	ば	あ												分			
情	ま	ま	し	あ												分			
で	た	つ	し	あ												分			

「	一	窓	内	全		り	決	に	足	切	喉	な		状	越	拡	続	を	勝
い	度	を	容	て	尚	ふ	し	に	に	り	が	ん		に	し	散	け	支	手
や	し	抜	ま	の	も	り	て	ふ	感	声	裂	ん		そ	、	さ	る	配	に
だ	か	け	ま	神	何	構	目	り	覚	は	け	ん		ぐ	ど	せ	五	さ	動
っ	前	零	で	経	か	わ	を	切	を	、	ん	ば		わ	、	感	れ	こ	う
！	を	の	理	を	を	ず	逸	り	呼	床	ば	か		ぬ	こ	は	て	う	と
も	向	部	解	視	叫	助	ら	番	び	と	り	か		問	か	急	い	。	制
う	か	屋	で	覚	ん	け	さ	才	起	同	に	っ		い	け	速	い	御	御
い	な	へ	き	へ	で	起	な	は	こ	化	零	！		て	て	に	た	で	御
や	か	と	て	と	い	こ	い	現	し	し	が	な		い	く	分	の	き	な
っ	な	避	い	動	た	し	よ	実	た	ま	発	ん		く	の	発	声	な	く
！	か	難	な	員	み	た	う	に	。	っ	し	ん		あ	の	した	を	な	な
も	っ	す	い	さ	た	い	に	起	天	ぐ	た	ん		る	は	声	意	な	な
う	た	る	い	せ	だ	だ	零	き	秤	も	く	ん		。	ず	識	識	く	な
・	っ	ま	な	て	が	が	に	た	の	っ	ぐ	ん			だ	中	の	活	な
・	た	で	い	お	、	番	近	非	傾	も	も	ん			と	に	の	動	な
・	っ	、	た	り	番	才	付	現	き	っ	っ	ん			、	感	の	を	な
。」	っ	番	ま	、	才	は	き	実	は	っ	た				覚	中	に	を	な
		才	ま	の	は		、	か	片	！	金				を	寄	に	を	考
		は	の	の			な	ら	方						寄			を	考

ら	最	つ	「	や	「	一	す	昨	「	ち	窓	何	「	形	な	の	放	確	畳
ず	早	が	落	な	い	緒	ぐ	日	や	着	、	も	大	の	緑	光	た	認	に
、	脳	来	ち	い	！	に	に	女	は	か	襖	い	丈	者	が	の	れ	し	倒
番	と	る	着	い	！	帰	帰	将	り	せ	と	ま	夫	の	広	隙	た	た	れ
才	喉	か	い	て	！	り	れ	の	こ	る	扉	せ	で	姿	が	間	た	た	込
は	に	も	て	く	！	ま	る	方	こ	そ	を	ん	！	は	つ	の	は	み	頂
思	は	し	だ	さ	！	す	う	に	こ	う	閉	。	安	消	て	先	、	垂	垂
っ	何	れ	い	！	！	！	で	聞	こ	す	め	心	え	い	に	何	れ	れ	る
た	の	な	！	！	！	。	！	き	こ	！	て	し	て	た	は	事	る	る	。
こ	フ	い	！	！	！	。	！	ま	こ	。	に	て	く	。	な	も	を	。	。
と	ィ	れ	！	！	！	。	！	し	も	。	駆	だ	さ	。	な	な	凝	。	。
を	ル	な	！	！	！	。	！	た	し	。	け	さ	い	。	か	か	視	。	。
そ	タ	い	！	！	！	。	！	。	の	。	寄	。	。	。	っ	た	し	。	。
の	ー	！	！	！	！	。	！	。	せ	。	り	。	。	。	た	か	し	。	。
ま	も	！	！	！	！	。	！	。	い	。	、	。	。	。	か	の	。	。	。
ま	か	！	！	！	！	。	！	。	。	。	自	。	。	。	の	。	。	。	。
ま	か	！	！	！	！	。	！	。	。	。	分	。	。	。	。	。	。	。	。
発	か	！	！	！	！	。	！	。	。	。	を	。	。	。	。	。	。	。	。
言	っ	！	！	！	！	。	！	。	。	。	落	。	。	。	。	。	。	。	。
し	っ	！	！	！	！	。	！	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
て	て	！	！	！	！	。	！	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

いた。栗の手を取り辺りを見渡しながら、少し強引にその手を引く。しかし、想像していた少女の軽さはそこにはなく、すぐに抵抗されているといふ現状に気が付いた。

「どうしました？」

「いやです！行きたくない。」

「怖いのはわかります。けど早くここから離れないと何が起こるか・・・」

「帰りたくないっ！」

番才の手を振りほどいた栗は、番才に背を向けるように畳の上で再び頭を抱えうずくまつた。荒れた呼吸を整えながら番才は少女を見下ろし、ざわつく心境のまま自分の言動を振り返り始める。

「・・・雨ノさん。」

一点を見つめたまま番才は力なく声を発した。数秒前の出来事が嘘みたいに静まり返った室内は、今自分はどこで生きているのだろうか。と錯覚してしまうほど異質だった。

「・・・やだ。ごめんなさい。」

